



家庭訪問記!(4月27日~5月6日)~担任がみんなの家族愛に触れる旅~

ゴールデンウィークをはさんで、4月27日~5月6日は家庭訪問でした。

担任の先生方から家庭訪問の様子を色々聞きましたが、みなさんは素敵なお家庭で育ち、大切にされています。当たり前ですが、愛されているのだなあと深く実感することができました。それが何よりうれしく、感動しました。

また、家に飾られているみんなの幼いころからの写真や、みんなが大切にしている宝物、飼われている動物、その他学校では見られないみんなの姿を拝見することができた、とも伺っています。

そんなすばらしい家庭にお邪魔させていただいたこの時間は、担任にとって大変貴重であり、大切な君たちとより近くなれたような気がしているのです。

これからも、ご家庭との連携を大切にしながら、みなさんと楽しく過ごしていきたいと考えます。保護者の皆様には、大変お忙しい中、貴重なお時間を作ってください、本当にありがとうございました。

さて、家庭訪問で多くのご家庭で話題になったのは、やはり「スマホ、タブレットの使い方」「勉強」のことです。「スマホ、タブレットの使い方」に関しては、学校でも様々な出前授業等で生徒とともに考える機会を設けていきます。「勉強」に関しては、どうやって勉強をしていけばいいのか、誰もが手探りの状態だと思います。勉強の仕方にはいろいろあります。これまでの先輩たちの事例を少し紹介します。

- ①学校の授業での先生の板書をノートに取り、これにいろいろな要点を書き込んで、自分の要点集を作る。そして、それを中心に復習する。
- ②何度も何度も教科書をすみずみまで読み、すらすらと読めるようになるまで、徹底的に教科書を読み込む。これは復習でも、予習でも！声を出して読むとよい。
- ③3種類のマーカーを使う。教科書やノートの重要な語句を色分けしてマーカーし、マーカー中心に復習する。そして少しずつ覚えていく。
- ④「今、何をするのか」「いつまでに、どうするのか」自分でしっかり考えて、計画性を持って時間を使う力を身につける。
- ⑤「頑張る時」「踏ん張る時」「考える時」「話を聞く時」「思いっきり全力で取り組む時」いろいろな“時”がやってくる。今はどんな“時”なのか、周りのことを配慮しながら、自分で考える。
- ⑥みんなの大切な時間を奪わない。そのためにはお互いに「時間を守る」ことが必要。自分の時間を大切に思うことで、自分の目標や夢の実現につながる。

他にもいろいろありますが、インプット(頭に入れる)の仕方は人によって違います。インプットされた脳の中の情報は結局どれも同じように整理されるのです。このように勉強の仕方は様々です。他にもいろいろあると思います。自分の性格に合った勉強方法を工夫してみてください。

(⑤と⑥は勉強に限ったことではありませんね！)

5月30日(月)、31日(火)は本年度初めての定期テストである1学期の中間テストです。毎日の復習や予習が重要です。部活動も始まり体も疲れてきますが、どんな時も、これだけは必ず毎日する!という約束事を自分で作らなくてはなりません。それを自分で書いて、部屋に貼っておくとよいでしょう。

そんな君たちに、南海(昔すぎるね!)、ヤクルト、阪神、楽天で監督を務めた野村監督からの言葉(金言)をプレゼントしましょう!・・・以前にも書きましたよ!覚えていますか?

現役時代、人一倍「不器用」だったという野村氏。そんな彼が、なぜ球界を代表する選手になったのか?

「成長が止まる人・成長し続ける人」の違い

結果よりプロセスを重視せよ

私はいつも選手たちに「根拠のあるプレーをせよ」と言い続けてきた。だから、そのプレーがたとえ失敗に終わったとしても、そこに正しい根拠があるのならOK。結果に至るまでのプロセスを私は重視し、その方向性さえ間違っていなければまったく構わないと思っていた。

監督時代、私はピッチャーが打たれて負けたとしても、あるいはバッターがチャンスで三振しても、その結果だけを見て選手に文句をつけたり非難したりしないように気をつけていた。

結果はダメだったとしても、そこにしっかりとした根拠があり、なおかつ正しい努力をしているかどうか。プロ野球選手として大成するには、そういったプロセス重視の考え方が大切で、正しいプロセスを経れば短期的にいい結果が出なくても、長期的にはいい結果が表れてくるものなのだ。

「人間は成功すること(結果)より、努力すること(過程)に意義がある」。現役、監督時代を通じて私はこのように思ってきたし、これは私の人生観でもある。プロフェッショナルの「プロ」は、プロセスの「プロ」でもあるのだ。

とはいえ、結果至上主義の今の世の中では、プロセスよりも結果を重視する人のほうが多い。特にプロの世界は「結果がすべて」だと言われる。

しかし先述したように、「結果がすべて」のやり方で短期的にはうまくいっても、いい状態を長くキープし続けるのは難しい。

野球に限らず、どの競技もそうだと思うが、日々の練習、努力というものは単純な作業の繰り返しが多く、面白くないし、退屈である。しかも、努力を続けたからといってすぐにいい結果が出ることも限らない。

「努力」に即効性はない

それなのに、いつも「いい結果」ばかりを求めていたら、そんなに都合よく結果が出るわけではないので、努力するのがバカらしくなってしまう。

だから、今の結果至上主義の世を見わたしてみると、物事を途中であきらめたり、投げだしたりしてしまう人のなんと多いことか。これは「いい結果」ばかりを求めた末の、必然の流れである。

私は選手たちにいつも、「努力には即効性はない」と言っていた。努力したからといって、すぐにいい結果が出るわけではない。

しかし、地道な努力を続けている人間と、何もしないで遊んでいる人間とでは、1年、2年後にものすごい差が出てくる。『アリとキリギリス』ではないが、長期的展望に則ったプロセスを経ることが重要なのだ。

今回は文字ばかりになってしまいました。最後まで読んでいただき



ありがとうございました。